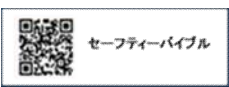


安全作業手順書【車両回送】



		見積り基準をした危険性の評価			
		軽微 (不休と休業3日以内)	重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が懸る)	
可能性(A)	重大性(B)				
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○ ○ ○ (極めて小さい)	○ ○ △ (かなり小さい)	○ × (中程度)		
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△ ○ (かなり小さい)	△ △ △ (中程度)	△ × (かなり大きい)		
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	× ○ (中程度)	× △ (かなり大きい)	× × (極めて重大)		

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積り	危険性の評価	危険度	判定
× ×	極めて重大	5	即座に対策が必要
× △、△ ×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
× ○、△ △、○ ×	中程度	3	何らかの対策が必要
△ ○、○ △	かなり小さい	2	現時点では必要なし （留意する）
○ ○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2026/8/28修正 (前回改正:2026/2/17)	現場名	東名高速道路(豊田IC～春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT)
-------------	---------------------------------	-----	---

機器工具 ・車両	作業車両、点検使用時工具一式	保護具	ゴム手袋(クリップの効くもの)、保護マスク、安全チョッキ、安全ぐつ、安全長ぐつ、ヘルメット
-------------	----------------	-----	---

作業区分		作業手順・作業内容	急所	危険ポイント	リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ)	リスクの再見積り				
				(～なので～になる)	(A)	(B)	リスク	(私達はどうする)	(A)	(B)	リスク		
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう	作業員全員で	手順間違えで思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1		
		作業員の役割(運転手、助手)を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する	免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	△	2		
	車両確認	使用車両輦の中身を確認する	運転手・助手の二名で鍵、プレート、通行証のチェックを行い	/	/	/	/	/	/	/	/		
		車両輦と使用車両が一致しているか確認する	運転手・助手の二名で	/	/	/	/	/	/	/	/		
		車載器とプレートの番号が同じであることを確認する	運転手・助手の二名で	/	/	/	/	/	/	/	/		
	通行証の通用区間を確認する	運転手・助手の二名で作業箇所と照合して	使用禁止区間でETCカードを使用し 区間外使用となる	×	△	4	必ず運転手・助手の二人以上で確認を行い 運用区間が不安を感じた場合は、必ず 隊長、上長に確認してもらう	○	○	1			
作業車両準備	使用車両の点検を行う	車両点検表がある場合は、点検表に則り	点検不足により、走行中に車両が故障してしまう	○	△	2	出発前に必ず車両点検を行う	○	△	2			
	車両の燃料量を確認する	/	燃料不足により、車両がエンストしてしまう	○	△	2	出発前に必ず燃料の確認を行なう	○	△	2			
	出発準備	車止めを外し、所定の位置へ戻す。不要なモノの置き忘れや、資機材等の落下・飛散の恐れがないか確認する。	車止めを外した後、荷台・積載物の養生ネット等設置後、出発前に車両周りを運転手・助手の二人以上で	不要なモノの置き忘れ、養生ネット等の設置不備により、資機材等が落下・飛散する	△	△	3	出発前に、必ず車両の周りを一周し、落下・飛散しそうなものがないことを確認する	○	○	1		
		出発時間等の調整及び連絡を行う	速度規制等の連絡が必要な場合、各々の手順書に従い	速度規制無表示により、一般車両から追突される	○	×	3	表示切替連絡及び実際の表示を確認して作業する	○	△	2		
		ETCカードの挿入及び確認を行う	運転手・助手の二名で	ETC未挿入のため料金所にて停車し 後方のお客様車両に支障をきたす	△	○	2	車載器の音声等や、出発前の再度確認を 運転手、助手の二人で行う	○	○	1		
	本作業	出発	基地等、敷地内から車道へと進入する	周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して	確認不足により一般車両及び人と接触する	△	×	4	余裕を持って慎重に車道へ流出する	○	△	2	
			目的地へ回送する※	法定速度を守って	速度超過により事故を起こす	△	×	4	東名及び名二環の法定速度を必ず守って走行する	○	△	2	
	規制内進入 (保安員への合図)	後続車両を確認しながら、速度を徐々に落とす	進入箇所手前300m地点でハザードランプを点滅させて	減速に後続車両が気づかず、追突される	△	×	4	補助員と共に後続車への確認を怠らず、 車間・速度等危険を感じた場合、進入を見送る	○	○	1		
		滑らかに規制内に入進する	進入箇所手前100m地点でハザードランプをウインカーランプに切替えて	後続車が誤って規制内に入進してくる	△	△	3	車間が狭い場合、進入を見送る	○	○	1		
		再度ハザードランプを点灯させる	規制内進入後、すぐに停車せず	誤って進入してきた後続車に気づかず、追突される	△	△	3	必ず後方の確認を行ってから停車する	○	○	1		
	車両移動・停止	停車する	後続車両の有無を確認して	誤って進入してきた後続車に気づかず、追突される	△	△	3	必ず後方の確認を行ってから停車する	○	○	1		
		①規制内で回送する ②規制内で前・後進し停車位置(作業位置)に移動する	①交通誘導員と停車位置の確認を行い、バック誘導に従い ②交通保安員は運転手から見える安全な位置(通行車線からなるべく離れた)で誘導を行い ③交通誘導員は決められた装備品(黄旗または赤色灯等)で作業車運転手から見て分かるように	交通誘導員との打合せを行わずバック移動を始め 交通誘導員や機材と接触する	△	×	4	①場内の様子を確認し、必要に応じて規制機材の 移動等を行なった後、誘導を伴いバック移動する ②バック誘導する際交通保安員は作業車後方運転主から 見える安全な位置で誘導を行う	○	△	2		
		駐車する	ハンドルを一般車両通行帯の反対側にまわし	ハンドル切りを忘れ、車両接触時に車両が前進し 前方の作業員に接触する	○	×	3	停車時、及び降車時に 補助員と共にハンドル切り及び確認を行う	○	△	2		
	現場離脱	コーンパー仕切り部の出入口について 助手がコーンパーを開けて車両を前進する	ラバーコーン、コーンパーを開けた助手が車両前を移動する	車両が発進して助手と接触する	○	×	3	運転手は助手の合図のもと発進する 助手は運転手の了承を得てから横断する	○	○	1		
		逃走防止	車止めを設置する	一般車両通行帯の逆側に	車止め設置を忘れ、車両が発進する	○	×	3	ハンドル切りの確認時に、車止めの設置及び 確認を補助員と共に進行	○	○	1	
		流出準備	車止めを外し、所定の位置へ戻す。不要なモノの置き忘れや、資機材等の落下・飛散の恐れがないか確認する。	車止めを外した後、荷台・積載物の養生ネット等設置後、流出前に車両周りを運転手・助手の二人以上で	不要なモノの置き忘れ、養生ネット等の設置不備により、資機材等が落下・飛散する	△	△	3	流出前に、必ず車両の周りを一周し、落下・飛散しそうなものがないことを確認する	○	○	1	
	現場離脱	流出	本線流出に向けた待機位置に移動する	①交通保安員と流出方法・合図について必ず打合せを行い ②誘導する際交通保安員は運転手から見える安全な位置(通行車線からなるべく離れた)で誘導を行い	上流確認を怠り、通行車両と接触する	△	×	4	交通誘導員の合図だけでなく、運転手 及び補助員の目視による確認を必ず行ない 安全が確認された後、余裕をもって流出する	○	○	1	
			車線を流出し速度を上げる	交通誘導員の合図を確認後、速やかに	/	/	/	/	/	/	/	/	
			目的地へ回送する	法定速度を守って	速度超過等により事故を起こす	△	×	4	東名及び名二環の法定速度を必ず守って走行する	○	△	2	
	帰着	敷地内進入	車道から敷地内へ進入する	後続車の様子を確認しながら	減速に後続車両が気づかず、追突される	△	×	4	必ず後方の確認を行いながら進入する	○	○	1	
			駐車	車両を後退駐車する	車両後退による駐車の際は、必ず誘導員配置して合図に従う	バック誘導員を配置せず、後方確認が十分でできず 他車両・設備・人等に接触する	×	×	5	必ず後退誘導員を配置し、打ち合わせを行い、誘導員の 合図により後退駐車する。誘導員の姿が見えない、合図が 聞こえない場合は停止する。 誘導員が不在の時は後退しない。前進駐車とする。誘導員 配置後に後進駐車する。	○	△	2
			後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	
	※特記事項	車両回送	ランプ等のカーブを伴う道路の走行について	カーブでは遠心力が働くため、車両の操作や挙動に注意 特に下記ランプは速度が乗りやすいうえ、いきなり急カーブに入るため十分注意すること ・名古屋IC/Bランプ ・上社JCT/C・Dランプ	ランプ内で速度超過により事故を起こす	△	×	4	カーブにさしかかる手前までに十分減速する 減速時は急ブレーキにはならないよう、距離やスピードに 余裕をもってブレーキをかける	○	△	2	